

新作歌舞伎～和と洋のコラボレーション 第三回システィーナ歌舞伎

「GOEMON 石川五右衛門」

2011年11月12日(土)～14日(月)5回公演

企画の意図

大塚国際美術館(館長:大塚明彦、所在地:徳島県鳴門市)では、一昨年の『^{きりしたんでらいばん}切支丹寺異聞 ^{ガラシヤ}伽羅紗』、
昨年の『スサノオ susanoo』に引き続き、ヴァチカンのシスティーナ礼拝堂を原寸大に立体再現
した「システィーナ・ホール」を舞台とする新作歌舞伎『GOEMON 石川五右衛門』を、11月12
～14日にかけて5回公演いたします。

システィーナ歌舞伎は、「和と洋のコラボレーション」「創作による新作歌舞伎」「地元からの共
演」をコンセプトにしています。

今般、初演される「GOEMON 石川五右衛門」は、松竹株式会社の製作により、荘厳な雰囲気
を持つ「システィーナ・ホール」に合わせて水口一夫 脚本・演出、藤間勘十郎 振付により創作して
繰り広げる舞踊劇です。石川五右衛門には片岡愛之助、石田周には上村吉弥、出雲の阿国には中村
壱太郎、五右衛門の子供時代 友市には上村吉太郎が、そして五右衛門と対立する豊臣秀吉には石田
太郎がそれぞれ扮します。

間口約19m×奥行約40m×高さ約15mというホールの中央に舞台を配置する、アリーナスタ
イルを活かしたダイナミックな演出。和の伝統文化である歌舞伎を西洋文化の壁画に囲まれた空間で
演じる歌舞伎公演は、東西相互に培われた文化の力が交錯して相乗効果を生み、魅惑的な舞台とな
ることでしょう。

このたびの公演では、徳島県出身のフラメンコ舞踊家 小島章司(2009年文化功労者)に特別出
演いただくとともに、徳島室内楽団の弦楽四重奏など、地元からの共演が実現しました。

システィーナ歌舞伎が、「文化立県とくしま」の更なる発展のため末長く親しまれるものになるよ
う、「NPO 法人 とくしま^{かほ}傾く会」(理事長:河野^{かわのとしはる}稔治)とともに取り組みたいと考えています。

美術鑑賞と歌舞伎観劇をともに楽しめる大塚国際美術館ならではの企画、歌舞伎ファンはもとよ
り美術ファンにも贅沢なひとときを過ごしていただけることを期待しています。

日 時

11月12日(土) 【Stage1】 11:00 【Stage2】 14:30

11月13日(日) 【Stage3】 11:00 【Stage4】 14:30

11月14日(月) 【Stage5】 11:00

30分前開場、各公演2時間半予定

演 目 『GOEMON 石川五右衛門』

石川五右衛門：片岡愛之助

出雲の阿国：中村壱太郎

友市（子供時代の五右衛門）：上村吉太郎

石田局：上村吉弥

豊臣秀吉：石田太郎

【あらすじ・みどころ】

GOEMON —— 赤毛の五右衛門

石川五右衛門——謎に包まれた生涯を新たな視点でとらえ、創作歌舞伎として「システィーナ・ホール」に繰り広げる舞踊劇です。

五右衛門（愛之助）は、明智光秀の重臣四王天但馬守の娘、石田局（吉弥）とイスパニア宣教師との間の混血児です。成人して天下を騒がす大盗賊となった五右衛門は、父と母の共通の敵である天下人、秀吉（石田太郎）への恨みを晴らすべく、その機会を虎視眈々とうかがっています。

ある時、捕手に追われ傷ついた五右衛門を匿ったのは、出雲の阿国（壱太郎）でした。

二人の間に芽生える恋心・・・しかし、五右衛門には恋を成就する時間はありませんでした。

和と洋のコラボレーション、かぶく心——アリーナスタイルの舞台をふんだんに駆使した、システィーナ歌舞伎の新作にどうぞご期待ください。

入場料

1公演 500席

【12日・13日（美術館入館料込み観劇料）】

プラチナ席（椅子席・座布団席）10,000円 / S指定席 8,000円 / A自由席 6,000円

【14日（休館日につき、美術鑑賞は開演まで）】

プラチナ席（椅子席・座布団席）7,000円 / S指定席 5,000円 / A自由席 3,000円

関連イベント とくしま傾く会の歌舞伎ナビ

歌舞伎の楽しみ方～システィーナ歌舞伎への期待～

日時：2011年9月23日（金・祝）13:30～15:00

上演演目について～システィーナ歌舞伎への招待～

日時：2011年10月30日（日） 13:30～15:00

ご参考

プロフィール

かたおかあいのすけ
【片岡愛之助 六代目 屋号：松嶋屋】

大阪府出身

1981年 12月 十三代目片岡仁左衛門の部屋子となる。
南座『勸進帳』の太刀持で片岡千代丸を名乗り、初舞台。
1992年 1月 片岡秀太郎の養子となり、大阪・中座『勸進帳』の
駿河次郎ほかで六代目片岡愛之助を襲名。



上方出身の人気花形。涼やかさと骨太さを併せ持ち、和事の二枚目から荒事、義太夫狂言の主人公まで、古典の大役に挑んで成果を上げている。

2010年以降の主な歌舞伎への出演は、『御浜御殿綱豊卿』の綱豊卿、『義賢最期』の義賢、『鳴神』の鳴神上人、『夏祭浪花鑑』の団七九郎兵衛、『近頃河原の達引』の猿廻し与次郎、顔見世興行にて急な代役で演じた『外郎売』の外郎売など。

歌舞伎以外の舞台にも積極的に取り組み、『赤い城 黒い砂』(2009)では中村獅童、黒木メイサらと共演。昨年9月には大阪松竹座『花の武将 前田慶次』に主演、新境地を開いた。また当月は、名古屋・御園座で井原西鶴の『好色一代男』で、恋に揺れる元禄の若者を好演してきたばかり。

近年、映像の分野にも活躍の場を広げ、映画では『私は貝になりたい』(2008)、『築城せよ！』(2009)、『小川の辺』(2011)などに出演、歌舞伎で培われた確かな演技力で存在感を示した。テレビでは、現代劇が初となる『ハガネの女 season2』(テレビ朝日系)が記憶に新しい。

舞踊家としての顔も持ち、上方舞の榎茂都流の四代目家元として一門を束ねている。

かみむらきぢや
【上村吉弥 六代目 屋号・美吉屋】

和歌山県出身

1973年 8月 片岡我當に入門する。
10月 大阪・新歌舞伎座『新吾十番勝負』の寛永寺の僧ほかで
片岡千次郎を名乗り、初舞台。
1993年 11月 南座『草摺引』の舞鶴ほかで六代目上村吉弥を襲名。



憂いを含んだ品のある美貌と確かな実力を併せ持つ、上方歌舞伎になくてはならない女方のひとり。古典から新作まで熱心に取り組む努力家である。

恒例となっている南座の歌舞伎鑑賞教室には第1回から連続出演し、今年19回目を迎えた。また、毎年6月には、師・片岡我當一門で巡演する歌舞伎鑑賞教室に参加し、常に重要な役どころを演じている。

近年の歌舞伎の主な出演は、『仮名手本中心蔵』十段目のおその、『近頃河原の達引』の遊女お俊など。上方のしっとりとした雰囲気を手堅く演じてみせる一方で、『京鹿子娘道成寺』の白拍子花子に挑戦するなど、舞踊へも意欲的だ。若女房から老け役まで多彩に演じ分ける手腕を買われ、江戸川乱歩作品を歌舞伎化した『江戸宵闇妖鉤爪』の百御前、『釣女』の醜女など個性的な役も見事にこなし、芸域の広さを印象づけている。

愛之助との共演も多く、当月御園座の『好色一代男』では、愛之助演じる主人公の父親を演じた。システィーナ歌舞伎には第1回目から連続出演している。

なかむらかずたろう
【中村壱太郎 初代 屋号・成駒屋】

東京都出身

中村翫雀の長男。祖父は人間国宝・坂田藤十郎。母は吾妻徳彌。

1991年11月 南座『廓文章』手代壱太郎で本名で初お目見得。

1995年 1月 大阪・中座『姫山姥』の一子公時で初代中村壱太郎を名乗り、初舞台。

清らかな品と初々しさが輝きを放つ。『鏡獅子』や『封印切』の梅川など、若くして大役に次々と挑んでいる伸び盛りの花形だ。

2010年3月南座の公演では、『曽根崎心中』でお初に、役と同じ19歳で初挑戦して話題を呼んだ。出石永楽館『道行初音旅』では、愛之助扮する忠信を相手に、静御前を初役で見事に勤めあげて高い評価を得ている。また、『仮名手本忠臣蔵』の力弥を端正に演じるなど、立役にも意欲的。今年、9月の大阪松竹座、10月の京都南座、11月の出石永楽館と、関西の舞台と縁があり活躍が期待される。

国立劇場の歌舞伎鑑賞教室や様々なワークショップでは、解説を担当して歌舞伎ファンの拡大にも大きく貢献。親しみやすい話術には定評があり、多才な一面を見せる。

映像では、テレビドラマ『寧々～おんな太閤記』（2009/テレビ東京系）で豊臣秀頼役で出演。バラエティ番組でもレギュラーをつとめ、同世代のタレントたちとのフリートークが楽しい『心ゆさぶれ！先輩ROCK YOU』（日本テレビ系）では、21歳の今どきの大学生としての等身大の姿をのぞかせている。

システィーナ歌舞伎には昨年から参加している。



いしだたろう
【石田太郎】

京都府出身

劇団雲出身の俳優・声優。舞台はもちろん、テレビや映画への出演も数多い。

声優としては『新刑事コロンボ』など、洋画の吹替を中心に活躍。

浄土真宗の僧侶としての顔も持ち、金沢市の乗敬寺の住職もつとめる。

洋画の吹き替えでは、誰もがその声を一度は聞いたことがあるはず。こなした役は数知れず、重厚な低音の声は、長身の体躯とあいまって、舞台や映像でも存在感を際立たせる。

『新刑事コロンボ』をはじめ、^{ジャン}G・ハックマン、^{アンソニー}A・ホプキンス、^{ジャック}J・ニコルソンの大半の作品を担当。『インディ・ジョーンズ』、『バットマン』、『ロードオブザリング』など多数の洋画の吹替で活躍する。

テレビでは、NHKの大河ドラマに、1968年の『竜馬がゆく』をはじめとし、『春日局』（1989）、『毛利元就』（1997）、『葵・徳川三代』（2000）等々、15作品に出演。その他、連続テレビ小説『芋たこなんきん』（2006/NHK）、『華麗なる一族』（2007/TBS系）、『セカンド・バージン』（2010/NHK）などがある。直近では、『相棒 シーズン8 元旦 SP!』（テレビ朝日系）、『鉄の骨』（NHK）、『森村誠一の「終着駅」』（テレビ朝日系）などが印象的だった（いずれも2010）。

映画出演は、『マルサの女2』（1988）、『その男、凶暴につき』（1989）、『宣戦布告』（2001）、『寝ずの番』（2006）、『おくりびと』（2008）など。舞台にも意欲的で、近年では、『あわれ彼女は娼婦』（2006）、『グリーンフィンガーズ』（2009）、『ベッドルーム・ファンタジー』（2009）がある。



こじましようじ
【小島章司 フラメンコ舞踊家】

徳島県出身

武蔵野音楽大学声楽科卒。

1966年 渡西

1967年 西ソ文化交流使節スペイン国立舞踊団の一員としてソ連公演に参加。

以後、10年間にわたりスペインで活動。1976年帰国。



1986年『瞋恚の炎(しんみのほむら)』で芸術祭賞、第18回舞踊批評家協会賞受賞。

代表作に『カディスの女』『ガルシア・ロルカへのオマージュ』『鳥の歌』『戦下の詩人たち』『ラ・セレスティーナ ~三人のパブロ~』など。舞踊批評家協会賞、芸術選奨文部大臣賞など受賞多数。2000年スペイン国王よりイサベル女王勲章オフィシャル十字型章受章。2003年紫綬褒章受章。2007年『戦下の詩人たち』では天皇皇后両陛下のご観覧を賜る。2009年高野山真言宗総本山金剛峯寺でフラメンコ奉納公演『聖なるいのち~空海に捧ぐ~』を行う。2009年スペイン国王より文民功労勲章エンコミエンダ章を受章。2009年文化功労者に選ばれる。2011年第15回ヘレス・フェスティバルで『ラ・セレスティーナ~三人のパブロ~』を上演。世界を代表するスペイン舞踊とフラメンコのフェスティバルに招聘され、観客、批評家共に絶賛される。

「システイーナ礼拝堂」について

ミケランジェロ(1475-1564)

天井画:「天地創造」ほか

1508-12年 フレスコ/3255×670cm

壁画:「最後の審判」

1536-41年 フレスコ/1463×1338cm



環境展示:「システイーナ・ホール」

システイーナ礼拝堂は教皇シクストゥス4世(在位1471-84)の命によって、1473年頃ヴァチカン宮殿内に建造が開始されたことからその名があります。天井までの高さが21mあり、幅13m、長さ40mの、礼拝堂としてはたいへん大きなものです。

時の教皇ユリウス2世(在位1503-13)は彫刻家として、建築家として、詩人として、さらに画家として優れた才能を発揮したミケランジェロに天井画を描くように依頼しました。彼は、1508年からわずか4年間で、旧約聖書『創世記』に基づき、天地創造から人類の誕生、そして人類の墮落と刑罰という神と人類との物語など、約1000平方メートルの天井に300人にも及ぶ人間像を描き上げました。天井画完成からおよそ四半世紀後、ミケランジェロは再び同じ礼拝堂の正面の壁画に「最後の審判」(『新約聖書』)を描くことになります。「最後の審判」とはキリスト教の考える世界の終末です。キリストが再び現れ、天使が死者を復活させ、人類は善人と悪人に分けられます。そして善人は天国へと救済され、悪人は地獄へ堕ちるとされています。伝統的な審判図が位階的で安定した構図をもつのに対し、ミケランジェロのそれは極めてユニークなものとなっています。ここでは、天使さえもが興奮し、驚き、動転しているのです。静かに世界の終末を迎えるのではなく、神の裁きの前で動乱し、反逆し、絶叫する人類が描かれています。

大塚国際美術館とは

渦潮を臨み緑豊かな鳴門公園に位置する「大塚国際美術館」。古代壁画から世界 25 ヶ国 190 余の美術館が所蔵する現代絵画まで、1,000 点を超える世界の名画を特殊技術によって、原寸大の陶板で忠実に複製しています。約 4 km に及ぶ鑑賞ルートには、古代遺跡や礼拝堂を現地の空間そのままに再現した立体展示のほか、レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晚餐」、ゴッホ「ヒマワリ」、ピカソ「ゲルニカ」など、美術書などで一度は見たことがあるような名画を美術史の流れに沿って展示しています。

なかでも、ミケランジェロが描いた天井画と正面祭壇壁画「最後の審判」とともに立体再現した「システーナ・ホール」の迫力は必見です。

大塚国際美術館

住所：徳島県鳴門市鳴門町 鳴門公園内

TEL：088-687-3737

FAX：088-687-1117

<http://www.o-museum.or.jp/>

開館時間：9時30分から17時（入館は16時まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

正月明けに連続休館あり / 7・8月無休

入館料：小・中・高生 520円

大 学 生 2,100円

一 般 3,150円

*20名以上の団体は10%割引

アクセス

- ・鳴門北ICから車で約3分
専用駐車場より無料シャトルバス運行
- ・高速バスにて（高速鳴門まで）
JR大阪駅より約2時間10分 / JR新神戸より約1時間35分
- ・路線バス「鳴門公園行」にて「大塚国際美術館前」下車
JR徳島駅より約55分、JR鳴門駅より約15分、
「小鳴門橋」バス停より約15分、
「徳島空港」バス停より約30分



環境展示：「スクロヴェーニ礼拝堂壁画」

《本件に関するお問い合わせ先》

大塚国際美術館 企画・広報部 坂本明子

TEL：088-687-3737 FAX：088-687-1117

e-mail：museum@otsukakj.co.jp